

小松城の取り壊し

明治四年（一八七二）の廃藩置県により、全国の城郭は国の管理となった。六年、政府は「城郭存廃決定」（廃



昭和10年代の小松城跡(小松市立博物館提供)

城令)を布告。存城・廃城の区別が行われたが、小松城は、この通達に記載されなかった全国三城の一つであった。というのも、これよりさき、慶応元年（一八六五）には、金沢藩が早々と小松城の廃城準備を進めており、「無主」かつ荒廃の著しい小松城は、すでに財政事情から存続が難しかったのである。

城の取り壊しに関わったのは、三の丸に設置された小松懲役場であった。明治五年（一八七二）、金平にあった徒刑場を移したもので、服役者が土地改良や開墾の



城跡地公売払下之図(小松市役所蔵)



小松監獄(小松市立博物館提供)



県立第四中学校(小松市立博物館提供)



本丸櫓台北東隅角部現況

労役作業に携わった。樹木は伐採、石垣は崩され、堀を埋めて農地化が進んだ。こうした景観の変化に、町民の中には旧城を惜しんで憤慨する者もあったという。さきの小松懲役場は、明治十一年に小松監獄署となり、十六年には石川県監獄本署となる。のち金沢監獄に合併されたため、小松城の監獄は

廃止された。

明治三十二年四月小馬出町こんまでまちに石川県第四中学校が開校。同年九月には旧城址の丸ノ内町(本丸と二の丸の合併地)に校舎が完成した。当初の入学者は一〇一名、卒業生は二七名であったという。四十年三月には県立小松中学校と改称。昭和二十三年(一九四八)四月

に県立小松高等学校となり、現在に至る。校地内には小松城唯一の遺構である本丸天守台が残されている。なお、明治二十九年(一八九六)には、石川県農学校が羽咋郡から城跡小馬出町に移転。教場は三の丸の能美郡公会堂や通成館内の農産館などを当てた。

(本康宏史)